

# 令和5年度 校内研究について

令和5年4月5日

南部町立南部中学校

## 1. 研究主題 「気づき・考え・表現し合える生徒の育成」

## 2. 研究副主題 『資質・能力を着実に身につける「主体的・対話的で深い学び」をめざして』

## 3. 研究主題・副主題設定の理由

研究主題は12年前より継続し設定されている「気づき・考え・表現し合える生徒の育成」を今年度もテーマとする。生徒たちがこれからの時代を生き抜くためには、答えのない問いに対して、主体的に考え、他者と協働しながら自分たちなりの答えを見つけ、実践していく必要がある。そのために必要な資質・能力が「気づき・考え・表現しあえる力」であると考え、今年度も継続してその育成を校内研究の主題とする。

この主題に掲げる資質・能力を育成するため、5年前より『「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて』を継続して副主題として設定し、研究を重ねてきた。その結果、各教科における「主体的・対話的で深い学び」とは何か、またそれを実現するための授業のあり方や評価の方法が明らかとなってきた。今年度は、本校の最重要課題である「長期欠席（不登校）や集団不適應の改善」「学習内容の定着」へのアプローチを視野に入れながら、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を核としながら、その基盤となる多様な特性を持ち、多様な考えを持つ生徒を包摂できる水平的多様性を保障した「学級づくり」、授業で学んだ学習内容を確実に身につけ、生きて働く資質・能力としていけるように「学習内容の定着」に焦点化し、この「主体的・対話的で深い学び」をさらに深め、学んだことを定着するためには、どのような指導をしていくべきか研究していく。

参考： ～「主体的・対話的で深い学び」のイメージ（文科省作成資料より）～

### 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

### 【対話的な学び】

子ども同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

### 【深い学び】

各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

## 4. 研究仮説

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実践することで「気づき・考え・表現しあえる力」が育成されるであろう。
- (2) 多様性を保障した「学級づくり」をめざすことで、学級に生徒の居場所ができ、多様な考えが交流できる「主体的・対話的で深い学び」が展開されるであろう。
- (3) 授業と効果的に結びついた家庭学習の支援と指導を改善することで「主体的・対話的で深い学び」が生徒にとって生きて働く資質・能力の獲得につながるであろう。

5. 研究の内容 「これまで実践してきていることを、日々の実践の中で少しレベルアップ」

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実践

①一人一実践

計画的に実施し、ブロックごとに参観。授業後、資質・能力が身についたかを検討する。

②研究授業

指導主事の指導を受ける中で実施。全員で参加し、授業後に校内研を実施する。

③教科研究会

昨年度までの蓄積を確認し、情報交換を行う。

④クロムブック・ワークショップ

教え合いながら実際にクロムブックのアプリをつかってみる。

⑤「南部中の子どもたちに必要な資質・能力」とは何か検討

南部町の将来を担う子どもたちに、特に必要とされる資質・能力とは何か考えていく。

(2) 多様性を保障した「学級づくり」

①Q-U 結果を活用した学年研究会

Q-U 結果を学年で共有し、水平的多様性が保障された「学級」をめざした対応を考える。

②校内研究会

「学級づくり」について、基調提案をしてもらい、学級経営について学び合う。

③全校での情報共有

学年研究会で検討された内容を全職員で共有し、実践する。

(3) 学習内容を定着させる「家庭学習の支援」 … 限られた時間を、どう活かしていくのか？

①学校全体での家庭学習支援

授業と連動し、生徒の実態を把握しながら課題や家庭学習の**効果的な指導方法**を実践していく。

②校内研究会

効果の上がる課題の出し方や自主学習の指導の在り方について意見を出し合い検討する。

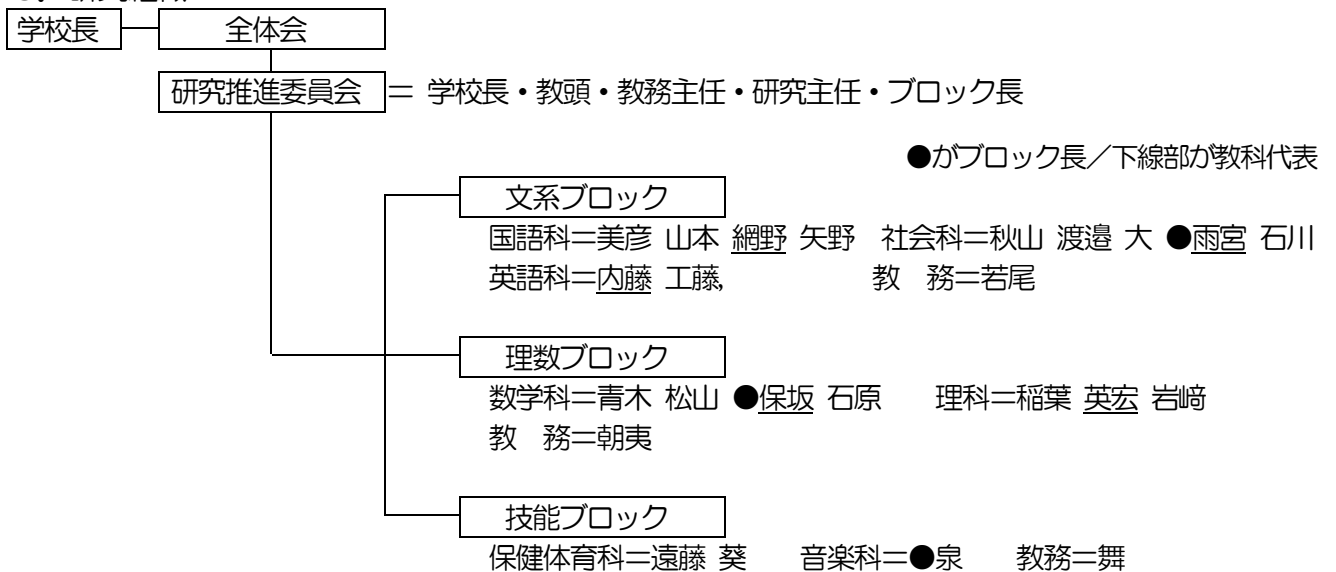
③支援が必要な生徒への対応の検討

学習内容に積み残しがある生徒への**支援の方法**や、時間の確保について検討する。

④キャリア教育の学習への動機づけへの活用

将来の自分の姿を描くと共に、現在の自分から将来までを見通し、学習の動機づけに活用する。

6. 研究組織



## 7. 年間計画 — 全体会・各教科の授業公開日など

回	日時	曜	全体会内容	分散会内容
1	4月5日	水	昨年度の課題と今年度のテーマの確認	
2	4月17日	月	「学習内容の定着」研究	
3	5月22日	月	「集団づくり」研究 / 指導案検討	教科別研究会Ⅰ（①昨年までの確認、②家庭学習の支援）
4	6月21日	水	【 研究授業① 】	
5	8月21日	月	教育課程還流報告 / Q-U全体の確認	学年別研究会Ⅰ（Q-Uの結果を受けての検討）
6	9月25日	月	指導案検討 / ICTワークショップ	教科別研究会Ⅱ
7	10月23日	月	【 研究授業② 】	
8	11月6日	月	指導案検討 / 「家庭学習」中間総括	
9	12月4日	月	【 研究授業③ 】	
10	1月29日	月	「実践の記録」について	教科別研究会Ⅲ（1年の反省） 学年別研究会Ⅱ（Q-Uの結果を受けての1年の反省）
11	2月26日	月	今年度の研究のまとめ・来年度に向けて	

## 9.校内研究を進める上での確認事項（昨年度の最後の校内研究会ブレインストーミングから作成）

### 南部中の現状

- ①定着に課題 = 授業中は理解できている様であるが、学習内容が定着していない。
- ②受け身 = 授業をはじめ、学習に対して受け身である。
- ③断片的知識 = 知識が断片的で、点が線になっていかない。
- ④メタ認知に課題 = わからないところがわからない。
- ⑤将来への見通し不足 = 将来（卒業後）のビジョンがない。
- ⑥貧弱な生活体験 = 生活体験が貧弱である。

### (1)「主体的・対話的で深い学び」の実践

- ・今年度は「数学」と「英語」に焦点を絞り、学習時間などで配慮し、一人一実践の機会などで他教科の教職員からも知恵を出し合って支援しながら全校で取り組んでいく。

#### ★教科別研究会の視点 【学習課題（発問）】

- ・授業改善として、次の視点から「学習課題（発問）」の改善 開発を進める。
  - ①生徒の「知的好奇心」を刺激する。（「主体的な学び」を促す。）
  - ②身につけた資質・能力を活用する。（「学習内容の定着」を促す。）
  - ③生徒の生活に関わり、取り組む必然性がある。（「主体的な学び」を促し、  
学ぶことによる「効果期待」を高める。）
  - ④難易度の異なる複数の課題を設ける。（「個別最適な学び」を促す。）
- ・教科ごとに、効果的な「学習課題（発問）」を共有し、蓄積していく。

#### ★一人一実践（二個人の授業改善）の視点

##### 【授業改善の方向性】

- ・授業が、生徒にとって「わからない・できない」を「わかる・できる」にする時間となるような授業改善をめざす。
- ・教員が、その授業で身につけるべき資質・能力を明確にして、身についたかどうか振り返ることで、授業改善を進めていく。

##### 【視点① 対話的な学び】

- ・授業の中で生徒同士の対話により「わからない・できない」が「わかる・できる」になるような活動を設定する。
- ・教職員が生徒同士の「対話的な学び」が、より効果的になるよう助言し、支援していく

##### 【視点② 復習の時間】

- ・授業の中で、副教材の活用や小テストの実施など学習内容について復習する時間を設ける。

##### 【視点③ 点を線に（体系化）】

- ・授業の中で学習内容の全体像や概要を提示することで、学習内容を生徒の中で体系化できるように支援する。

##### 【視点④ 授業との連携】

- ・授業の学習内容を、身につけようとする資質・能力に応じた効果的な学習方法を授業の中で指導していく。

##### 【視点⑤ 個別最適な学び】

- ・副教材を、全員が行う「必修」と、選択して行う「応用」と、難易度を明示し取り組ませる。

##### 【視点⑥ フィードバック】

- ・定期テスト、小テスト、パフォーマンステストなども活用し、資質・能力が身についたのか検証し、授業改善に活かしていく。

##### 【視点⑦ ICT】

- ・クロムブックの研修を校内で行い、授業でのICTの活用を進めていく。

(2) 多様性を保障した「学級づくり」 <詳細については、5月 第3回 校内研究会で基調提案>

**【個別最適な学び】**

- 学習課題や自主学習ノートの提出などの指導は、多様な発達段階、多様な家庭環境におかれた生徒がいることを踏まえ、集団の同調圧力を利用するのではなく、教職員が個別に指導を行う。

(3) 学習内容を定着させる「家庭学習の支援」

**【家庭学習】**

- 日常の家庭学習では、副教材を優先とし、自主学習ノートは提出を推奨するが必修としない。
- 家庭学習課題（宿題・提出物）を生徒に与えるときに、その日習ったことを振り返るなど学習効果を高めることを意識する。課題をテスト直前に集めるのではなく、直前は自主学習ノートなどによる「個別最適な学び」ができるよう配慮する。
- 生徒の学習可能時間を意識しながら、家庭学習の支援を行う。

**【個別最適な学び】**

- 自主学習ノートへのコメントなどで、効果的な家庭学習となるようアドバイスしていく。学習内容を定着させるのに、なにが効果的なのか、教職員が研究し、「南部中の家庭学習（仮）」（4月17日 第2回校内研究会 提案）を作成し、生徒と共有する中で、授業や家庭学習の助言に活かす。

(4) 学年での取り組み

**【キャリア教育】**

- キャリア教育の中で、くりかえし「どんな大人になりたいか（＝キャリアプラン）」を考えさせる。そして、その実現のために、今どうすべきか生徒と一緒に考える。
- キャリア教育の中で「将来の選択肢」「夢を実現させるルート」についての知識を生徒が身につけられるように支援する。

**【総合学習・学校行事】**

- 総合的な学習の時間や学校行事や校外学習の中で、学習内容を活用するような場面を設定していく。

(5) 研究の検証 …研究主任が企画し、協力いただきながら実施すること

**【実態把握】**

- 生徒の学習可能時間、利用可能な学習資源（外部教育機関、家族）を把握し、「個別最適な学び」に活かす。

**【効果検証】**

- 4-5月、10-11月、1-2月に、Google Form を活用した質問紙調査を行うことで、実態を把握するとともに効果を検証していく。また、1年生はCRT テスト、2年生は学力学習状況調査、3年生は領域別テストなどを活用して、資質・能力が見についたかどうか検証する。